BOSE®

OWNER'S MANUAL

DVD HOME THEATER SYSTEM

3・2・1GS

この度は3・2・1GSシステムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

3・2・1GSシステム取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

目　次

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

アンプ部について

警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源ケーブルが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

通風孔のある機器のみ

●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが本機の下敷にならないようにしてください。ケーブルに傷がついて火災・感電の原因となります。

●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

アンプ部について

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源ケーブル、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードやケーブルの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

Safety Information

スピーカー部について

⚠ 警告	●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
	●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災の原因となります。
	●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
	●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
	●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

スピーカー部について

⚠ 注意	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
	●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
	●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
	●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

コピーコントロール CD や DVD ディスクでごくまれに本システムでの再生ができない場合があります。

そのようなディスクを再生して機械が反応しなくなったり、ディスクが取り出せなくなった場合は、下記の取出方法を試してください。

取出方法 ・・・注意参照

1. ACケーブルをコンセントから抜きます。
2. 1分以上経ってから再び電源ケーブルをコンセントに差し込みます。
3. 通常通り**Open/Close** (Stop/Eject) ボタンを押すとディスクを取り出すことができます。

注意

取出方法を行ってもディスクが取り出せない場合は、無理やりディスクトレーをこじ開けようとしたり本体を開けないでください。 本体やディスクトレーにキズが付くばかりでなく、内部の CD や、DVD にもキズが付き、そのディスクを再生することができなくなる場合があります。
取出方法を試してみてもディスクが取り出せない場合は無理をせず、**ボーズ株式会社 ユーザーサポートセンター**までお電話ください。

ボーズ株式会社
ユーザーサポートセンター
☎ 03-5489-**1388**

ご使用の前に

この度はボーズ社モデル3・2・1GSホームシアターシステムをお買い上げいただきましてありがとうございます。モデル3・2・1GSシステムは高音質、シンプルかつ、エレガントなシステムであるにもかかわらず、ボーズ独自の信号処理技術により、ステレオ音源からは広く豊かな空間印象、また、サラウンド録音されているソースでは、より迫力と臨場感ある音で映画を楽しむことができます。シンプルなシステムですので、今までのホームシアター製品のようにセッティングに苦労する必要がありません。箱を開けてすぐに最高のホームシアターをお楽しみ頂けます。

モデル3・2・1GSシステムの内容

・小さな筐体に集約されたAM/FMチューナー、DVD/CDプレーヤー
・さらに小型になりインテリア性を高めたジュエルアレイ・スピーカー
・性能、デザイン共に優れたベースモジュール
・テレビの操作も可能な新型の赤外線リモート・コントローラー
・外部機器(ビデオデッキ、衛星チューナー、CDチェンジャーあるいはテープデッキ等)を接続するための豊富な入力

再生できるディスクについて

モデル3・2・1GSのDVD/CDプレーヤーは、以下のタイプのディスクを再生できます。

名称	ロゴマーク	映像方式
DVDビデオ	DVD VIDEO DVD VIDEO	NTSC PAL
音楽CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	

地域番号を確認してください

DVDプレーヤーとDVDディスクの地域番号（リージョンコード）が合っていなければ使用できません。地域番号はそれらの機器、DVDディスクが使用される国または地域ごとに割り当てられています。本機の場合はメディアセンターの底面にリージョンコードが記載されています。DVDディスクはジャケットやケースなどに記載されています。日本で視聴できるディスクには次のような記号があります。

2　1 2 4　ALL　など

また、業務用ディスクの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。

地域番号	おおよその該当地域
1	アメリカ、カナダ
2	日本、ヨーロッパ(東欧の一部を含む)、中近東
3	東アジア、東南アジア
4	オーストラリア、ニュージーランド、中南米
5	東欧、アフリカ(南アフリカ共和国、エジプトを除く)、インド
6	中国(香港を除く)
ALL	全地域

この取扱説明書の使い方

この取扱説明書では、主に、リモコンとメディアセンターのボタンの説明と、テレビ画面のメニュー内容、メディアセンターのディスプレイに表示されるステータスインジケーターの内容について説明して行きます。

表記上の区別のしかた

ボタン名…ボタンの名称は**太字**で書いてあります。ボタンに記号や文字がついている場合は、ボタンのイラストだけで書かれている場合もあります。

オンスクリーンディスプレイメッセージ（上下にラインあり）…画面上メッセージは、**太文字で、さらに上下にラインを付けて**表記しています。

メディアセンターディスプレイの内容…表示される文字や記号は**太字の英大文字**で記載しています。

この取扱説明書で使用されている用語の説明

DD D、DD DOLBY DIGITAL…ドルビー研究所によって開発された音声圧縮技術のドルビーデジタルの登録商標ロゴマーク。ドルビーデジタル方式の音声圧縮はDVDビデオでは最も一般的な音声圧縮方法です。

アスペクト（縦横）比…テレビ画面の横（幅）と縦（高さ）の比率です。標準のテレビ画面は4:3です。ワイドテレビの画面が16:9です。

チャプター…DVDでの正式な用語ではpart of title(パートオブタイトル：PTT)と呼びます。チャプターが入っているディスクでは、見たいシーンのサーチができます。

コンポジット映像信号…輝度、色および同期情報を含んでいる、一本のビデオ信号。NTSCとPALはコンポジットビデオ信号の種類です。

dts…DVDディスクで採用されているマルチチャンネルサラウンド音声の圧縮方式の一つ。

DVD…12cmおよび8cmの光ディスクを使用した映画、音楽、コンピューターなど様々な用途に応用される大容量光ディスクの規格。デジタル・ビデオ・ディスクまたはデジタル・バーサタイル・ディスクの頭文字。

DVDビデオ…読み出し専用DVDにビデオ（動画や音声）を収録する規格のこと。画像にMPEG‐2、音声にDolby AC-3の圧縮方式を用いて、片面1層のディスクに2時間程度の映画を1本収録できる。音声は、リニアPCM、MPEGオーディオ、DTS等がある。ユーザーが好みのカメラアングルを選択再生できるマルチアングル機能や、最大8ストリームの音声、最大32カ国語の字幕スーパーを選択再生できるマルチランゲージ機能など、多くの機能を持っている。

IR…赤外線（infrared)の頭文字。リモコンの信号をやりとりする方式のうちの一つ。

レターボックス…標準（4:3）の画面に16:9の映画などの左右を画面いっぱいに映して上下に余白を入れる表示モード。このモードでは縦横比が正しく、全ての映像が表示されることになるが、上下に黒い帯が入り、表示面積が小さくなってしまう。

MPEG…ディスクに音声や映像を記録するためのデータ圧縮方式の一つ。

MP3…MPEG Audio Layer 3を略したもの。MPEGオーディオの1方式。MPEGオーディオは音声情報を圧縮するための規格で、音声ファイルを圧縮するやり方の違いによって、レイヤー1(Layer 1)からレイヤー3までの3通りが規定されている。

・Layer1：圧縮率1/4(ステレオ)
・Layer2：圧縮率1/6〜1/8(ステレオ)
・Layer3：圧縮率1/10〜1/12(ステレオ)

したがって、一番圧縮率の高いMP3方式では、1枚のCDに通常の約10倍の曲を収録できる。

NTSC…テレビジョン放送方式のうちの一つ。アメリカのテレビジョンシステム委員会がきめた標準方式のことで、アメリカをはじめ日本やカナダ、メキシコで、この方式を採用している。白黒放送を継承し走査線数525本、フィールド数毎秒60枚（フィールド2枚で1フレーム＝画面）。National Television System Committee（全国テレビジョンシステム委員会）の頭文字。

PAL…テレビジョン放送方式のうちの一つ。Phase Alternation by Lineの頭文字。PAL方式は、ドイツ、イギリスなどヨーロッパと、アジア・アフリカ諸国の大部分、それに中国で採用されている。走査線数625本、フィールド数毎秒50枚。

PCM…アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号。これはCDおよびレーザーディスクに使用されたデジタルオーディオ信号の形式です。

Sビデオ…2回路分の4ピンのミニDINを使用し、輝度信号と色信号の2つに分けて伝送する規格。輝度信号と色信号を別にしているため、コンポジットに比べると画質がよい。ほとんどのテレビはSビデオ入力端子を装備している。

タイトル…ビデオクリップの集合。チャプターが集まったものがタイトルで、タイトルが集まったものが一枚のディスク。ただし、一つのチャプターで構成されるタイトルもあれば、一つのタイトルで構成されるディスクもある。

トラック…オーディオ・テープやディスクに記録された選択できる個々のデータの単位。CDでは 曲（1トラック目=1曲目）ともいう。

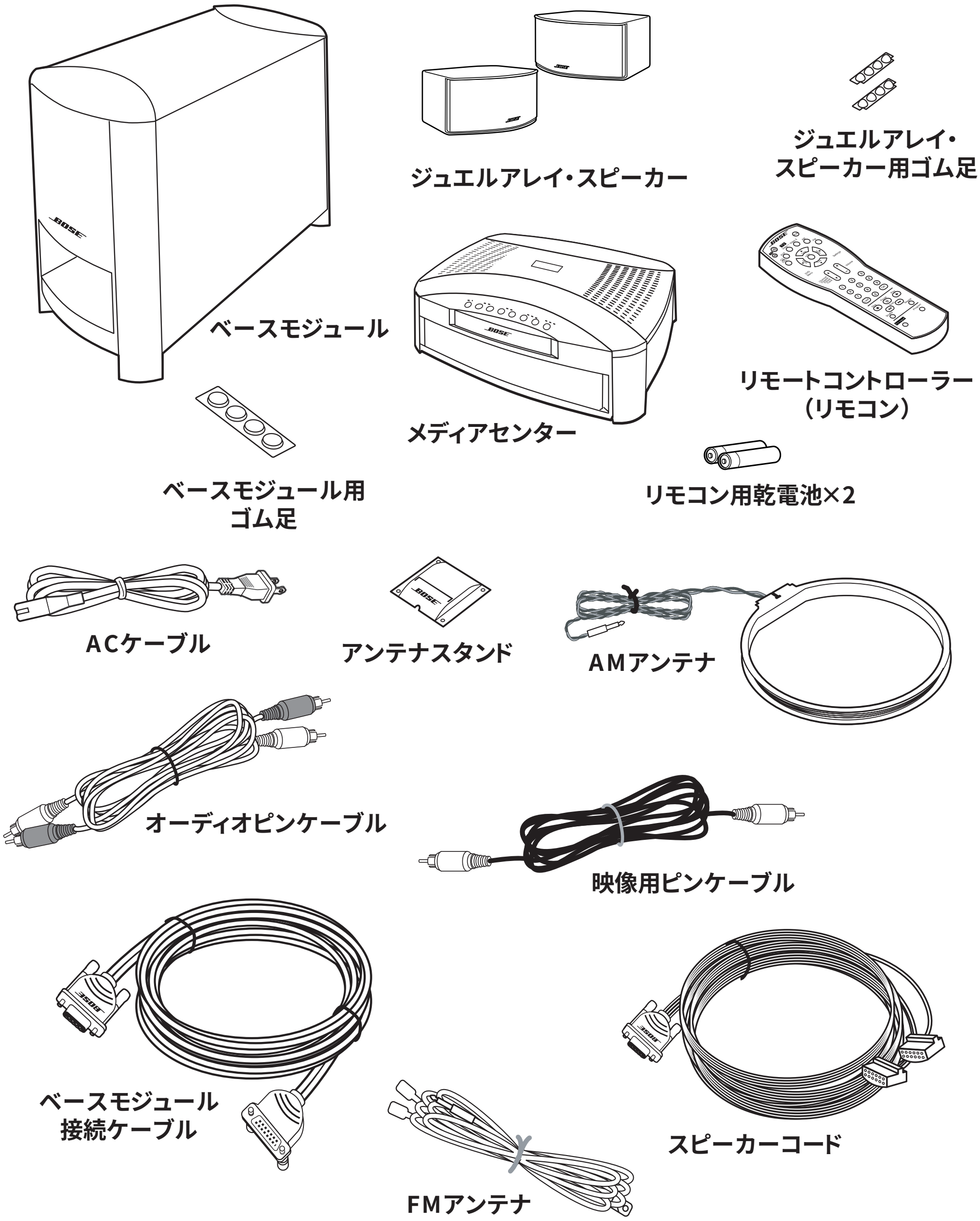
内容物の確認

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のためにも保管しておくことをおすすめします。

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

⚠ **警告：窒息する危険がないように、製品を包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。**

図1
内容物



設置方法

下記のガイドラインに従ってジュエルアレイ・スピーカーとメディアセンターの置き場所を選んでください。

♪：**ここに示した設置のガイドラインは製品の性能を最大限に生かすためのものですが、これを参考にご自分の好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探していただいてもかまいません。**

このシステムで電源コンセントに接続するのはベースモジュールだけです。2本のジュエルアレイ・スピーカーとメディアセンターは電源コンセントに接続しません。電源コンセントとの関係を考える場合はベースモジュールから電源コンセントの距離だけを考えるだけですみます。

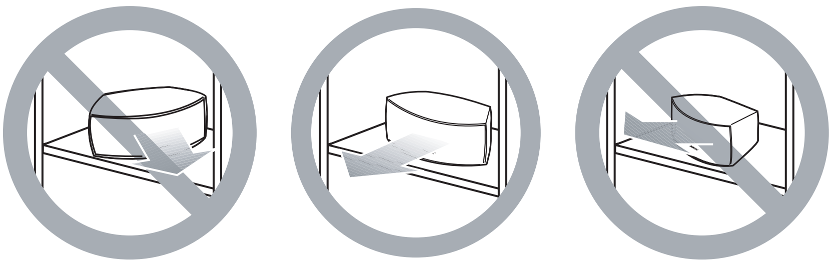
ジュエルアレイ・スピーカーの設置

よい環境にスピーカーを設置できれば製品の性能を最大限に生かした、音響特性やサラウンド感を堪能できます。

・ジュエルアレイ・スピーカーは必ず正面を向けて設置してください。内側に向けたり、外側に向けたりしない方がより良い結果が得られます。

図2

ジュエルアレイ・スピーカーの設置

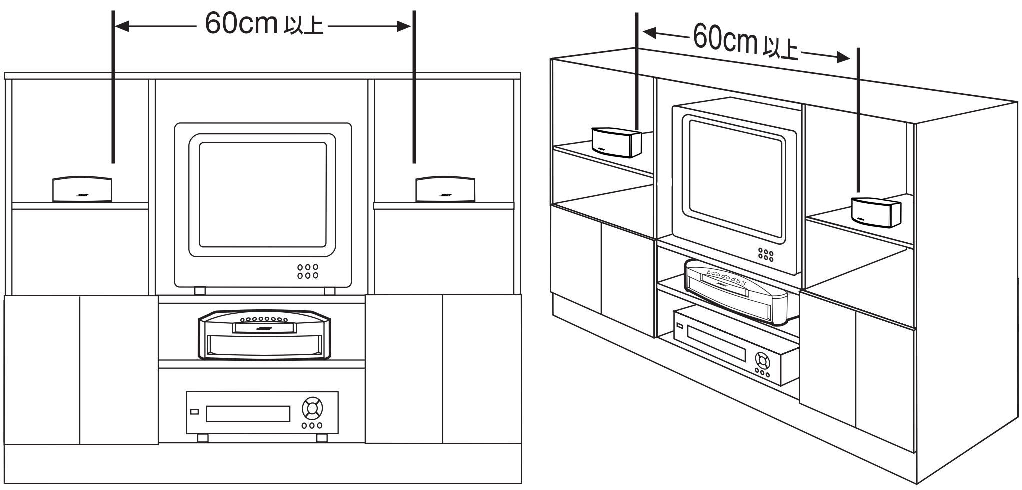


・書棚やテレビラックなどの上に置く場合は、必ずジュエルアレイ・スピーカーを棚の前面部に設置してください。

♪：**書棚の奥の方に設置してしまうと、せっかくのサラウンド感などが損なわれてしまう原因になります。**

図3

ジュエルアレイ・スピーカーを平らな棚や角に置く場合



⚠ **警告：スピーカーを設置する部分がガラスや磨き込んだ板、つるつる滑るような材質のものの上などは、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は必ず付属のゴム足を使用して、落下しないように安全に設置してください。**

・テレビのブラウン管の上に置く場合や、テレビスクリーンの左右に設置する場合は等距離になるように設置します。

♪：**ジュエルアレイ・スピーカーはテレビの近くに設置しても画面に影響がでないような防磁型（シールド方式）になっています。**

・ジュエルアレイ・スピーカー同士の距離はすくなくとも60cm 離してください。ただし、映像と音声とがバラバラになり過ぎないように、画面の縁からは1m 以内に設置するようにしてください。しかし、この距離はあくまでも目安ですので、部屋の条件や個人的好みによって一番最適なところをお探しいただけます。

・左右のジュエルアレイ・スピーカーは、同じ高さになるように設置してください。
このジュエルアレイ・スピーカーは、底面が必ず下になるように設置するように設計されています。また、その向きで使用できるようなテーブルスタンド、フロアースタンドも別売でご用意しています。

♪：**別売の取付金具の中には、スピーカー取付部分の部品を上下逆にすることでジュエルアレイ・スピーカーを正しく取り付けることができる構造のものがあります。**

図4

ジュエルアレイ・スピーカーを設置するときの向き



♪：**上下を逆にしたり、縦にして使用すると、本製品のサラウンド効果が著しく低下します。必ず水平に上下左右を正しく設置するようにしてください。**

♪**注意： モデル3・2・1GSシステムは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたジュエルアレイ・スピーカーには右用のスピーカーコードを、左に設置されたジュエルアレイ・スピーカーには左用のスピーカーコードを接続してください。**

メディアセンターの設置

ディスクトレーの開閉を妨げるものがない場所にメディアセンターを設置してください。
付属のケーブル類でベースモジュールやジュエルアレイ・スピーカーまで届く範囲であることを確認してください。また、その他の外部機器(テレビ、テープデッキ、ビデオデッキ)と接続する場合は接続するための市販のケーブルを用意して、そのケーブルが届く範囲であることも確認してください。

ベースモジュールの設置

次のことを確認して設置してください。

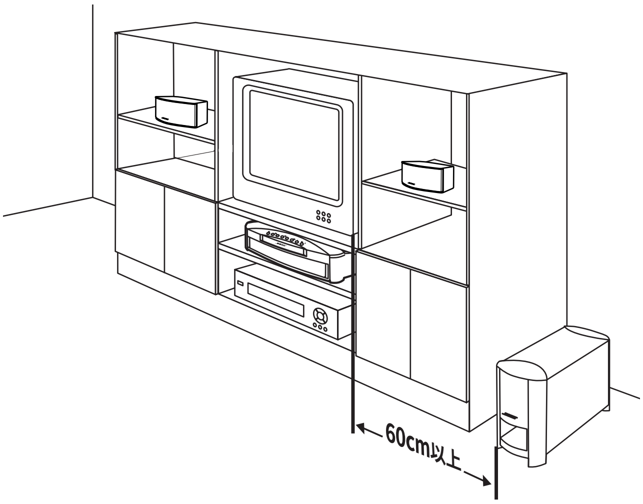
・メディアセンターおよびACコンセントまで付属のケーブルが届く距離にあること。

・設置しようとする場所が、テレビやスピーカーが設置してあるのと同じ側であること。

・ベースモジュールは非防磁のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は画面に影響を与えないように少なくとも60cmは離れていること（機種とブラウン管のサイズによって異なります）。

図5

ベースモジュールとテレビの間は60cm以上空けます



⚠ **注意：ベースモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。**

ポートと換気開口部をふさがないようにしてください。

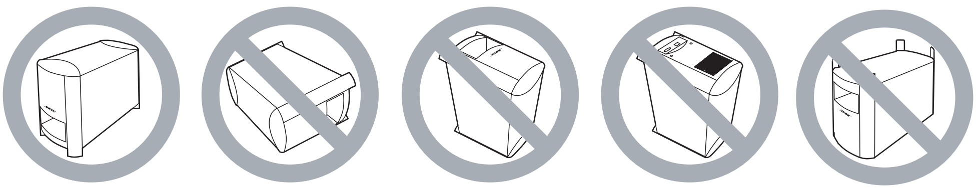
・ベースモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがベースモジュールの換気開口部をふさがないように十分気をつけてください。

・ベースモジュールは、ポートがふさがることを防ぎ、効率良く低音エネルギーが得られるように、ポートを部屋に向けるか、または壁に沿うように置きます。

・ベースモジュールは底面が下になるように設置します。

図6

ベースモジュールを設置するときの向き



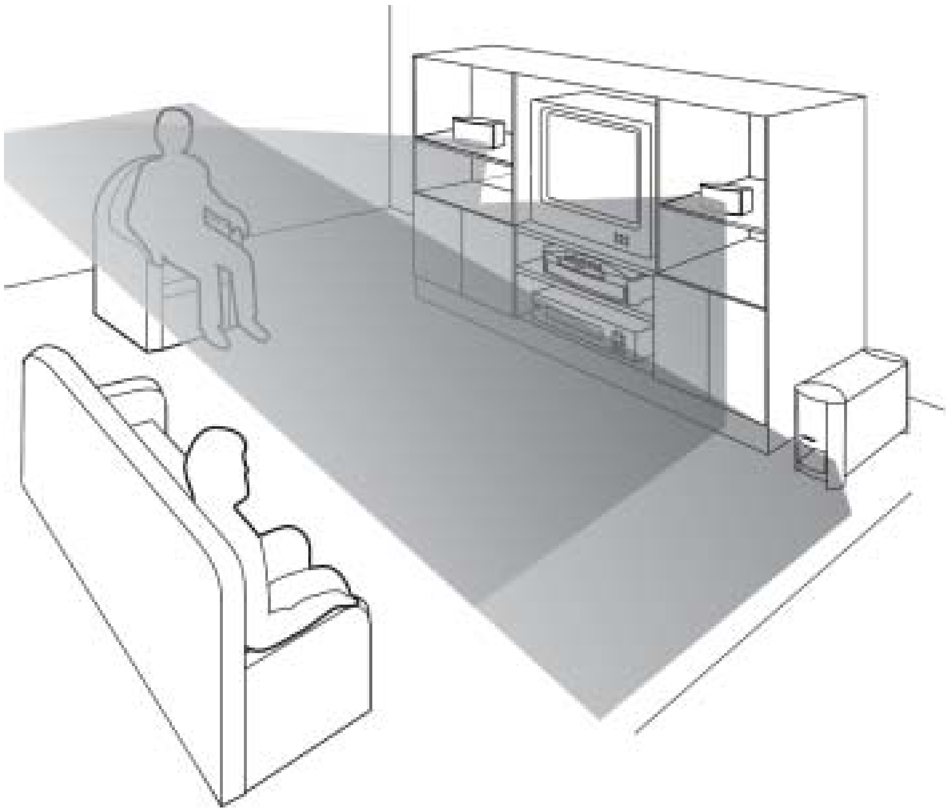
⚠ **注意：**
・横倒し、天地逆には設置してはいけません。
・ベースモジュールの背面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してベースモジュール背面スリットをふさがないようにしてください。

システムの設置が完了したら

ジュエルアレイ・スピーカーとメディアセンターが直接見える場所ならば、お部屋の中のどの位置にいてもサラウンド体験をお楽しみいただけます。

図7

どこにいても楽しめるようなシステム配置



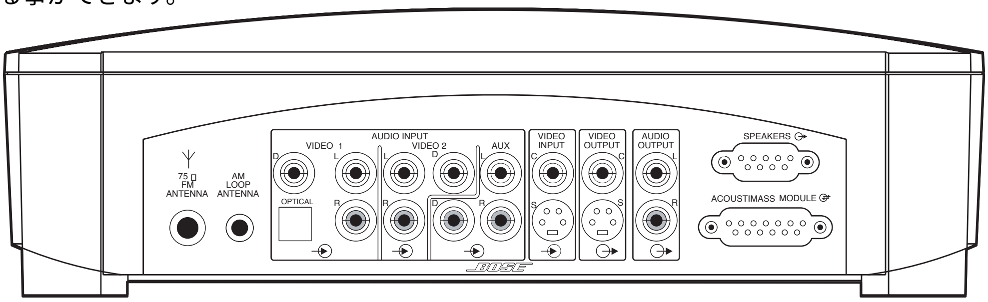
⚠ **注意：すべての結線がすむまでは、ACケーブルをコンセントに接続しないでください。**

接続について

メディアセンターの背面パネルの分かりやすい表示と付属の専用ケーブル類で、楽に結線をする事ができます。

図8

メディアセンター背面パネル



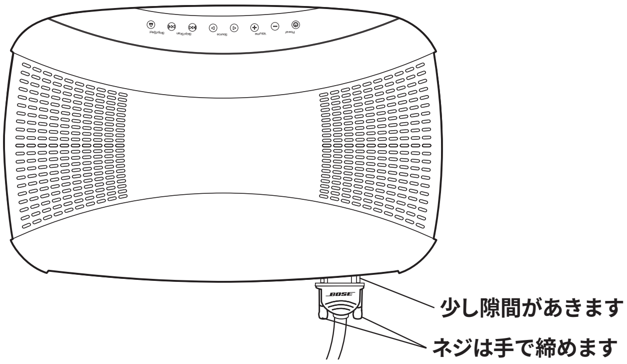
接続の手順

1. メディアセンター背面のSPEAKERS ⊖▸ と書かれているところにスピーカーコードの2本のネジが付いているプラグを差し込みます。プラグの両脇についているネジをしっかり締めてください（ ⊕ マークは入力、⊖▸ マークは出力、⊖▸ は入出力を意味します）。

♪：**プラグを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。**

図9

メディアセンター背面パネルのスピーカー端子へのスピーカーコード接続

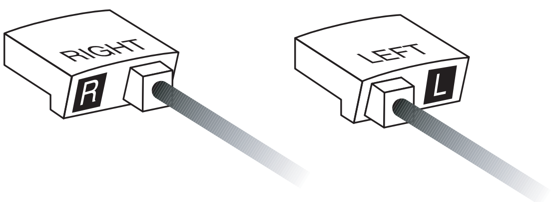


2. スピーカーコードの反対側は、2個のスピーカーの間隔に応じて、引き裂いてください。

3. コネクターにLEFTと書かれている方は、視聴する場所から向かって左側に置くスピーカーに接続します。同様にコネクターにRIGHTと書かれている方は、右側に置くスピーカーに接続します。

図10

スピーカーコネクターの左右のマーク

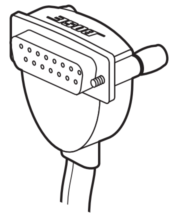


♪ **注意：モデル3・2・1GSシステムは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたジュエルアレイ・スピーカーには右用のスピーカーコードを、左に設置されたジュエルアレイ・スピーカーには左用のスピーカーコードを接続してください。**

4. ベースモジュールへの結線は、MEDIA CENTER と書かれたジャックへ直角に曲がっている専用コネクターを差し込みます。コネクターの左右にあるネジはしっかり締めてください。メディアセンターへの結線はもう一方のコネクターをACOUSTIMASS MODULE と書かれたジャックへしっかり差し込んでください。コネクターの左右にあるネジをしっかり締めてください。

図11

ベースモジュールへ取り付ける直角のコネクター

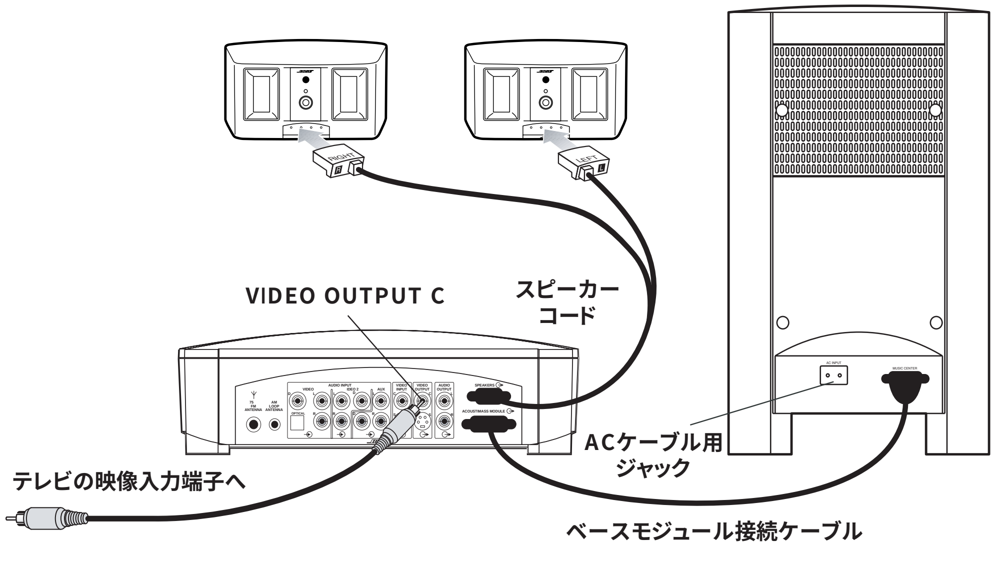


♪: **コネクターを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。また、ネジを締める時にドライバー(ネジ回し)を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このコネクターは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー(ネジ回し)を使用してもかまいません。**

5. メディアセンター背面の**VIDEO OUTPUT C**にコンポジット映像ケーブル(黄色のピンケーブル)を差し込んで、反対側をご使用になるテレビのビデオ入力端子の映像入力端子に接続します。

図12

メディアセンターへの基本的な接続



S映像ケーブルでテレビに接続する

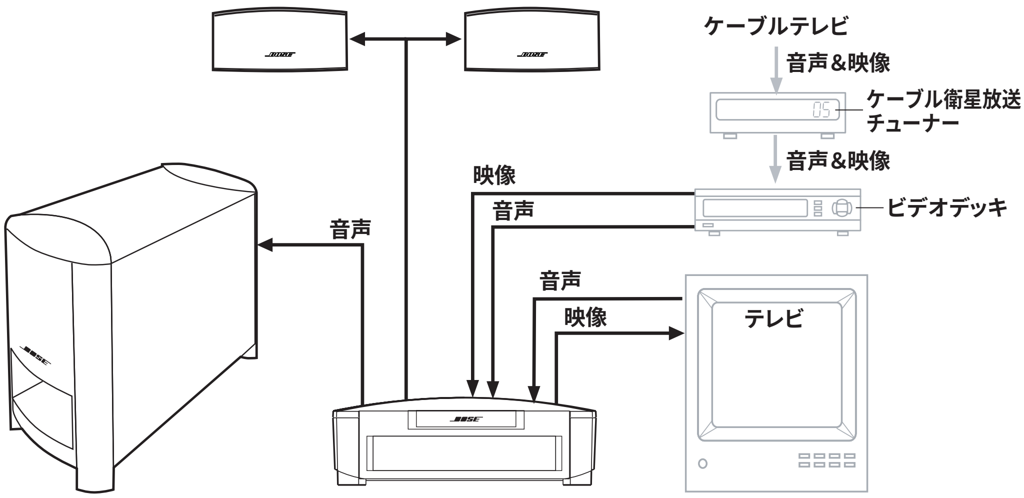
多くのテレビに採用されているS映像入力端子に接続する場合、メディアセンターの背面の**VIDEO OUTPUT S**に市販のS映像ケーブルを差し込んで、反対側をご使用になるテレビのビデオ入力端子のS映像入力端子に接続します。S映像信号は通常のコンポジット信号(黄色のピンケーブル)による接続よりもより高画質な映像が楽しめます。

その他のソース（映像や音源）を接続する

メディアセンターにはビデオデッキや、その他の機器の映像信号と音声信号両方を接続して使用する事ができます。標準的な接続方法は以下の図13〜15のように行います。また、その他の接続方法については19ページの“ その他の接続方法 ”をご覧ください。

図13

メディアセンターへの外部機器の接続



外部機器の接続

メディアセンターには外部の映像入力端子が1系統、音声入力端子が3系統あります。また、それぞれの音声入力端子はアナログ入力端子とコアキシャル（同軸）デジタル入力端子を装備しています。また、VIDEO 1入力にはオプティカル（光）デジタル入力端子も装備しています。VIDEO 1入力端子とVIDEO 2入力端子から入力された音声には自動的にフィルムEQがかかります。AUX入力端子からの音声にはフィルムEQはかかりませんが、オンスクリーンディスプレイでフィルムEQをかけるようにする事もできます（34ページ参照）。

メディアセンターに外部機器の音声信号を接続するときの注意

・標準のRCAピンケーブルを使用してください。
・ピン端子の赤を右チャンネル用に、白（または黒）を左チャンネル用に接続します。
・モノラル信号を接続する場合は、市販のモノラル-ステレオ変換ケーブルを使用して接続してください。

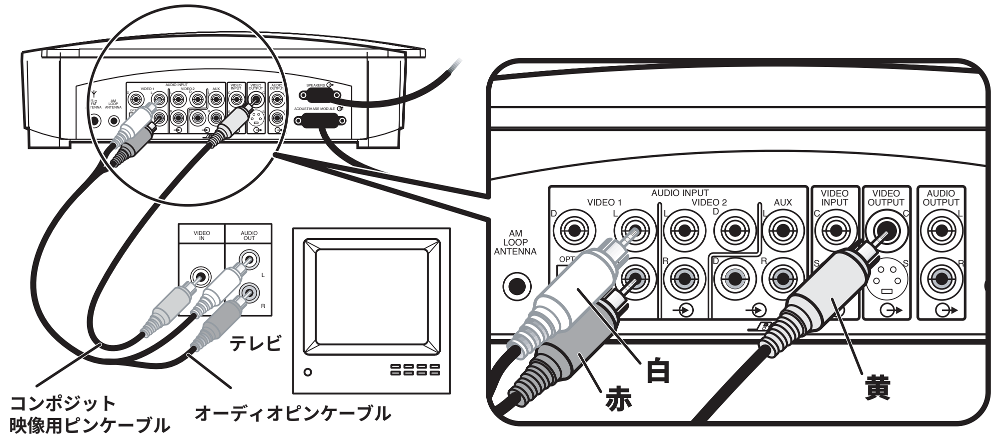
接続する機器（ビデオデッキ、テレビなど）の使い方や、接続方法などの詳細はそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

⚠ **注意：それぞれの機器との接続と、メディアセンターへのアンテナの接続が終わるまで機器の電源をコンセントに接続しないでください。**

図14

テレビからの音声出力を、メディアセンターのVIDEO 1入力に接続し、テレビへの映像入力とメディアセンターからの映像出力を接続

テレビとの接続について

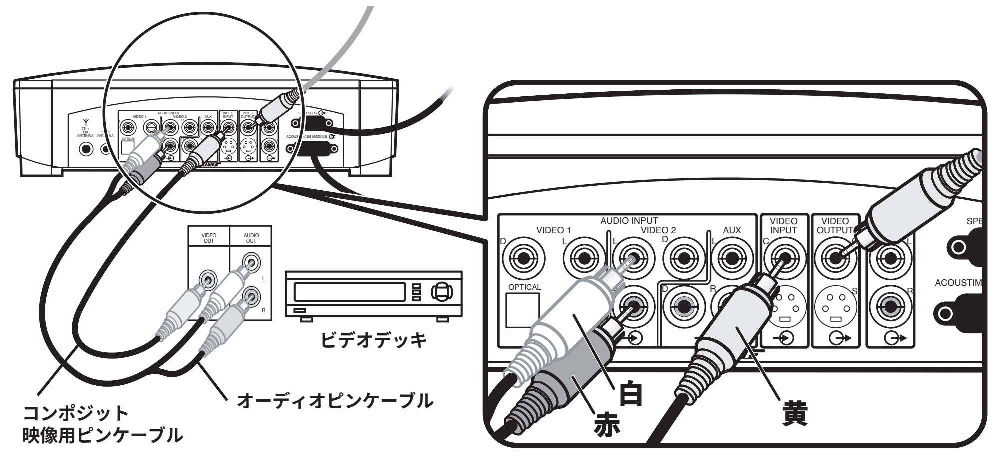


♪ **注意：** テレビの映像入力端子をメディアセンターの映像出力端子にコンポジット（同軸）ケーブル（黄色のピンプラグのケーブル）で接続している場合は、ビデオデッキの映像出力端子とメディアセンターの映像入力端子もコンポジット（同軸）ケーブル（黄色のピンプラグのケーブル）で接続してください。市販のS映像ケーブルで接続する場合は、すべての映像の接続をS映像ケーブルで接続してください。音声信号の接続はRCAピンケーブルを使用します。

図15

ビデオデッキからの音声信号と映像信号をメディアセンターへ接続

ビデオデッキとの接続について



♪ **注意：** メディアセンターの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子は接続しないでください。DVDビデオを再生した場合著作権保護の影響により画面が乱れる事があります。

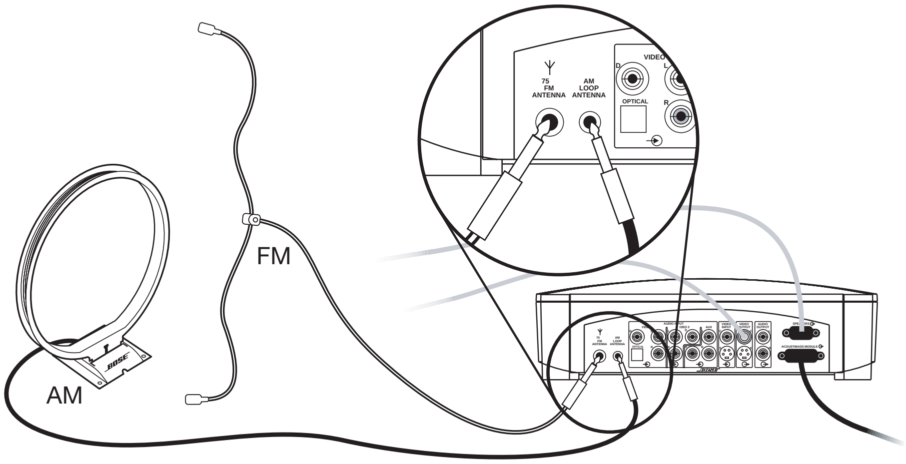
♪ **注意：** メディアセンター、テレビ、ビデオデッキの映像信号をコンポジット（同軸）ケーブル（黄色のピンプラグのケーブル）で接続している場合は、衛星チューナーや、ケーブルテレビチューナーの映像出力端子とビデオデッキの映像入力端子もコンポジット（同軸）ケーブル（黄色のピンプラグのケーブル）で接続してください。
市販のS映像ケーブルで接続する場合は、すべての映像の接続をS映像ケーブルで接続してください。音声信号の接続はRCAピンケーブルを使用します。

付属アンテナの接続

メディアセンターの背面にAMとFMのアンテナ接続ジャックがあります。アンテナ線は丸めたりせずに、必ずのばした状態でご使用ください。

図16

AMアンテナとFMアンテナを接続



FMアンテナの接続

メディアセンターのFMアンテナジャックに付属のFMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
アンテナアームを広げます。アンテナの向きや高さ、設置場所をいろいろ試してみて最良の設置場所を探してください。

AMアンテナの接続

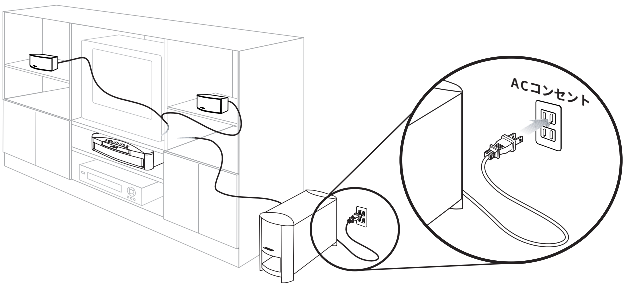
1. メディアセンターのAMアンテナジャックに付属のAMアンテナのプラグを奥までしっかり差し込みます。
2. アンテナのループを可能な限りメディアセンターや他の電子機器から離してください。少なくともメディアセンターからは50cm以上、ベースモジュールからは1.2m以上離すようにしてください。
3. ループの向きをいろいろ試して感度が良くなる方向を探して、付属のアンテナスタンドに取り付けて立てて固定するか、そのまま壁などに固定してください。できれば窓際が、比較的良好な状態で受信できます。

最後にACコンセントに接続する

はじめにベースモジュール背面のACケーブル用ジャックに付属のACケーブルを奥までしっかり差し込みます。そして、壁のコンセントにACプラグを差し込んでください。

図17

最後にACケーブルをコンセントに接続



テレビからの音声について

テレビの音声をモデル3・2・1GSシステムで楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

リモコンの準備

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池（単三型2本）を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ **注意：付属の電池は動作チェック用として同梱しております。新品の乾電池よりは使用期間が短くなりますので、リモコンの効きが悪くなってきた場合は新しい乾電池と交換してください。**

使用上の注意

- **メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンで操作できないことがあります。**
- **本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。**
- **リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。**

電池についてのご注意

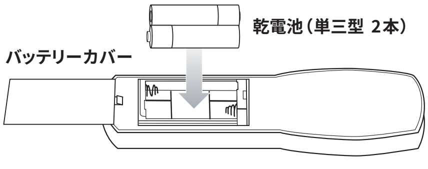
- **乾電池の ⊕ と ⊖ の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。**
- **新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。**
- **乾電池は絶対に充電しないでください。**
- **長い間（1カ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。**
- **液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。**

電池交換の時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。

図18

乾電池の交換



その他の接続方法

3・2・1GSシステムは簡単にそして、ハイクオリティーなホームエンターテインメントを提供するために作られました。しかし、簡単でありながらもさまざまな外部機器を接続して楽しむこともできるシステムとして柔軟な面も持ち合わせています。具体的にメディアセンターに外部の機器を接続する際の方法を2つあげてみます。

図19の接続方法では、衛星チューナーとケーブルテレビチューナーのどちらもがビデオデッキを通ってメディアセンターにつながっています。このように接続すると、モデル3・2・1GSシステムを使ってビデオや衛星放送、ケーブルテレビを楽しんでいるときはどんなことをしてもテレビから直接音が出ないようにできます。テレビを楽しむ際にはテレビの音声を別にメディアセンターへ接続します。

図19

ケーブルチューナー、衛星チューナー、ビデオデッキから直接音声信号をメディアセンターに接続

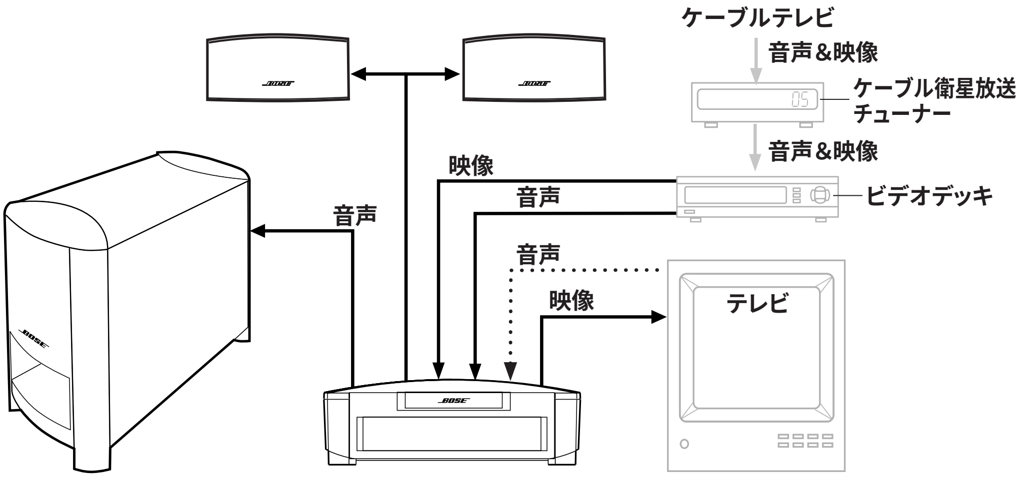
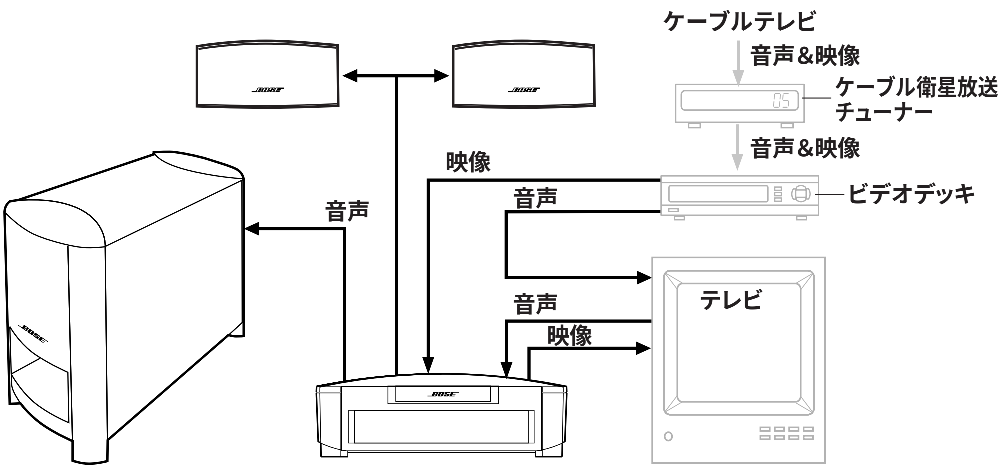


図20の接続方法では、衛星チューナーとケーブルテレビチューナーのどちらもがビデオデッキに接続され、ビデオデッキの音声出力がテレビに接続されています。そして、テレビの音声出力がメディアセンターに接続されてます。これはメディアセンターの1つの音声入力端子(例えばVIDEO 1)を使ってすべての音声を再生することができるので、衛星チューナー、ケーブルテレビチューナー、ビデオ、テレビの再生をメディアセンターのソース切り換えなしで楽しめます。

図20

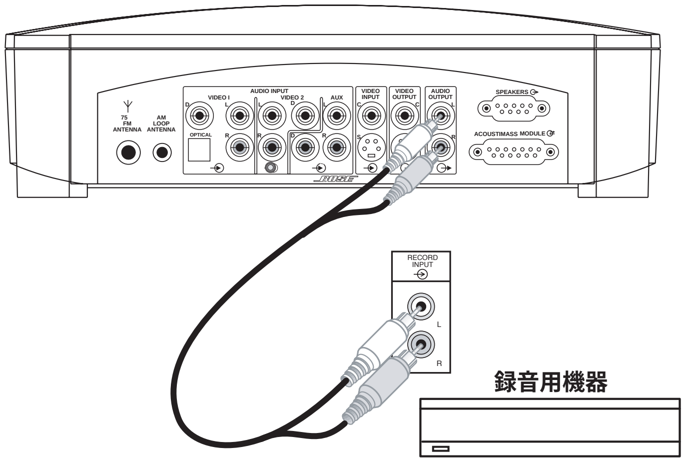
音声信号はテレビからまとめてメディアセンターに接続



録音機器の接続

メディアセンター背面のRECORD端子から音声が出力されます。この端子と録音機器の入力端子をオーディオピンケーブルで接続します。

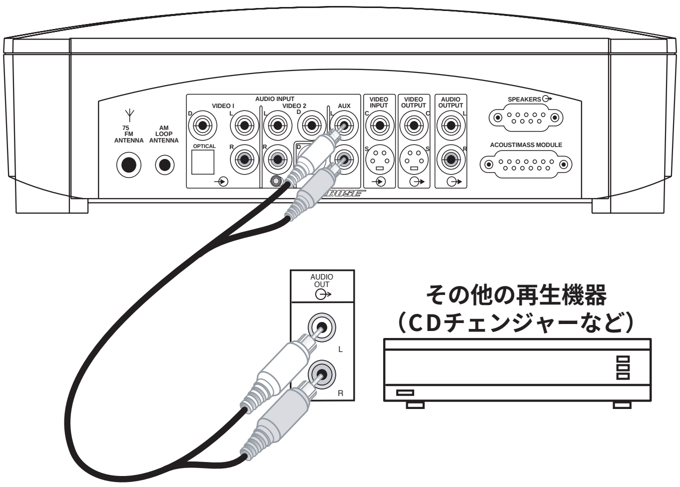
図21
録音機器の接続



その他の再生機器との接続

たとえば、CDチェンジャーなどの再生機器と接続する場合は、メディアセンター背面のAUX入力端子にオーディオピンケーブルで接続します。

図22
その他のコンポの接続



デジタルオーディオ出力端子を持つ機器との接続

もし、お使いになる機器にデジタルオーディオ出力端子がある場合、光デジタル出力ならば、市販の角型光デジタルケーブルでメディアセンターのVIDEO 1入力端子の光デジタル入力端子に接続してください。コアキシャル（同軸）デジタル信号ならば、VIDEO 1、VIDEO 2または、AUX入力端子のコアキシャル（同軸）デジタル入力端子に接続してください。

♪注意： **・外部の機器からメディアセンターのデジタル入力端子にDTSのビットストリーム信号をデジタル入力しても、本システムでは再生できません。**
・外部の機器からメディアセンターへデジタル信号を入力している場合はDVDのリジューム“ 続き再生メモリー（28ページ参照） ”は働きません。

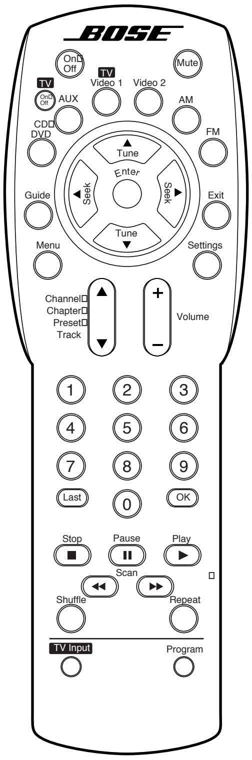
モデル3・2・1GSシステムの使い方

リモコンの**On/Off** ボタンを押すとメディアセンターの電源が入ります。このボタンはメディアセンターの**Power** ボタンと同様の機能です。

♪ **注意：外部の機器の電源を入れるためには、それぞれの機器のリモコンや電源スイッチを使用してください。ただし、テレビの電源のOn/Offは、3・2・1GSのリモコンにお手持ちのテレビのメーカーに対応した設定コードを登録することで可能になります（24ページ参照）。**

リモコン

リモコンのボタンは機能によってグループに分かれています。また、リモコンのいくつかのボタンはメディアセンターのボタンと同様な機能を持っています。



電源On/Offとミュート（一時的消音）



システムの電源をOn/Offします。



ミュート（一時的消音）のOn/Offを行います。

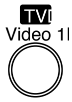
ソース（音源）の選択



内蔵CD/DVDプレーヤーを選択します。ソフトが挿入されている場合は再生されます。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



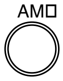
音源としてAUXを選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



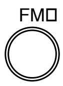
音源としてVideo 1（テレビ）を選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



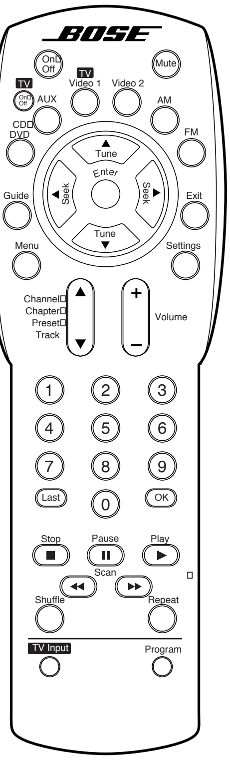
音源としてVideo 2を選択します。このボタンでシステムの電源をOnできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



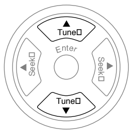
内蔵AMチューナーを選択します。このボタンでシステムの電源を入れて、最後に聞いていたAMの放送局を選択します。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



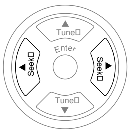
内蔵FMチューナーを選択します。このボタンでシステムの電源を入れて、最後に聞いていたFMの放送局を選択します。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。



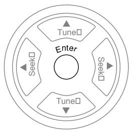
ソース（音源）とメニューの選択



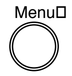
チューナー時、AM/FMラジオの受信周波数を上げ/下げするボタンです。オンスクリーンディスプレイを表示しているときは上下の項目を選択するときに使います。



チューナー時、周波数を上下してシークチューニング（電波の強い放送局を受信して停止）するときに使用します。
オンスクリーンディスプレイを表示しているときは選んだ項目の内容を変更するときに使います。



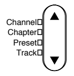
このボタンを押すとサブメニューになります。他のボタンと一緒に使用して、カスタム設定や選択などを決定するときに使用します。



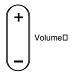
DVDソフトにメニュー画面（ルートメニュー）がある場合、現在トレーにあるDVDソフトのメニュー画面を表示したり、メニュー画面を消すときに使用します。



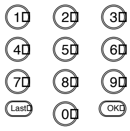
モデル3・2・1GSシステムのオンスクリーンディスプレイ画面を表示したり、オンスクリーンディスプレイ画面を消すときに使用します。



DVDではチャプターを、ラジオではプリセットステーション（あらかじめ記憶してある放送局）番号を、CDではトラック番号を進めたり、戻したりするときに使用します。

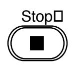


ボリュームを上げたり下げたりするときに使用します。＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。－を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。



数字ボタンは、直接DVDチャプター、CDトラックあるいはラジオのプリセット番号を呼び出すときに使用します。一桁の番号を入力するときは数字の前に0を入力すると素早く反応します。

再生モードの選択



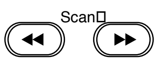
DVD以外ではディスクの再生を停止します。DVDの場合は、このボタンを押すとリジューム（続き再生メモリー）状態で停止します。もう一度押すと完全に停止します（28ページ参照）。



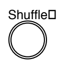
このボタンを押すと再生をポーズ（一時停止）します。



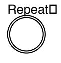
このボタンを押すと再生を始めます。



DVDのチャプターやCDのトラックを早戻し、早送りするときに使用します。ラジオの選局時にはスキャンチューニング（次々と電波の強い放送局を受信して行く）を行います。

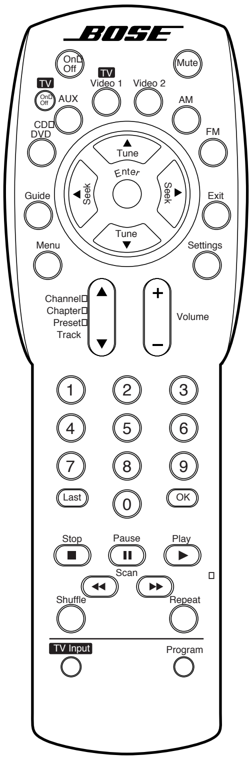


CD再生時にこのボタンを押すとランダムにトラックを再生します。もう一度このボタンを押すと通常の再生モードに戻ります。DVD再生時には働きません。



このボタンを押すたびに、CD一曲（DVD時はチャプター）→CD全曲（DVD時はタイトル）→繰り返し再生の解除→CD一曲…を繰り返します。

リモコンの拡張機能



3・2・1GSリモコンには、21、22ページで説明したボタン以外にも主要メーカー各社のテレビをコントロールすることができるボタンがついてます。これらの機能を用いるには、あらかじめお手持ちのテレビのメーカー/ブランドに対応した設定コードを3・2・1GSのリモコンに登録する必要があります（24ページ参照）。

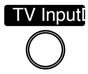
♪**注意：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。**



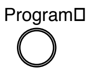
テレビの電源のOn/Offができます。



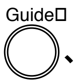
テレビで、直前に見ていたチャンネルを呼び出せます。

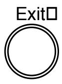


テレビの外部入力を切り換えるときに押します。



このリモコンをテレビのリモコンとして働くように、設定コードを登録するときに使用します（24ページ参照）。

♪**注意：**

、

、

ボタンは現在日本では対応していません。押しても反応しなかったり、予測しえない動作をする場合があります。

テレビを操作するためのリモコン設定

主要メーカー各社のテレビをコントロールするために、リモコンを設定します。巻末の設定コード表（42ページ）を参照してお手持ちのテレビのメーカーの設定コード（4桁の数字）を入力します。

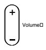
♪ **注意：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。**

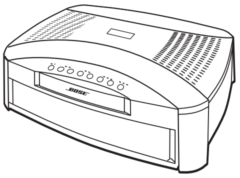
♪ **注意：お使いのテレビのメーカーに対応した設定コードを登録しても部分的にしか機能しない場合があります。このような場合は、そのメーカーの別の設定コードを試してみてください。**

♪ **注意：もし、登録に失敗してしまった場合、登録している最中にリモコンのソース選択ボタンが数回点滅を繰り返します。この場合は、7秒間待って、もう一度登録し直してください。**

設定の手順

1. 本機とテレビの電源を入れます。
2. リモコンの右下にあるProgramボタンと左上にあるTV On/Offボタンを同時に3秒間押し続けます。リモコンの6つのソース選択ボタンがすべて赤く点灯すると登録準備が完了します。
3. お使いのテレビのメーカーに対応する設定コード（4桁の数字）をリモコンの数字ボタンを使って入力し、最後にリモコンの右下のProgramボタンを1回押します。
4. リモコンのソースボタンが1回だけ赤く点滅したら登録は完了です。リモコンを使用してテレビのチャンネルを変えるなど動作を確認してください。

♪ **注意：3・2・1GSのリモコンのVolume**  **ボタンでテレビについているスピーカーからの音量を調節することはできません。**

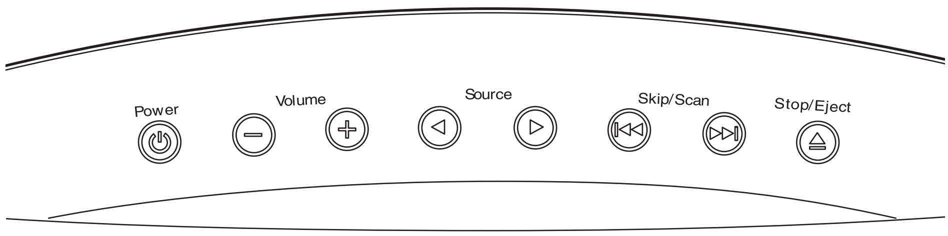


メディアセンター

メディアセンターには天面にコントロール（操作）パネル、前面にシステムの現在の状態を示すステータスインジケーターとDVD/CD用ディスクトレーがあります。

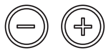
コントロール（操作）パネルについて

コントロールパネルには8個のボタンがありますが、メディアセンターのすべての機能を使用するためにはリモコンの使用が必要になります。





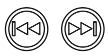
システムの電源をOn/Offします。



ボリュームを上げ下げするときに使用します。⊕を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。⊖ を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。



ソース（音源）の切り換えを行います。



DVDではチャプターを、CDではトラック番号を進めたり、戻したりするときに使用します。ラジオではスキャンチューニング（次々と電波の強い放送局を受信して行く）を行います。
ラジオモード時：一回押すと自動選局を開始します。特定の周波数に合わせる場合はこのボタンを押し続けて周波数を合わせてください。
CD/DVDモード時：一回押すとDVDではチャプターを、CDではトラック番号を進めたり、戻したりできます。このボタンを押し続けると早戻し、早送りができます。



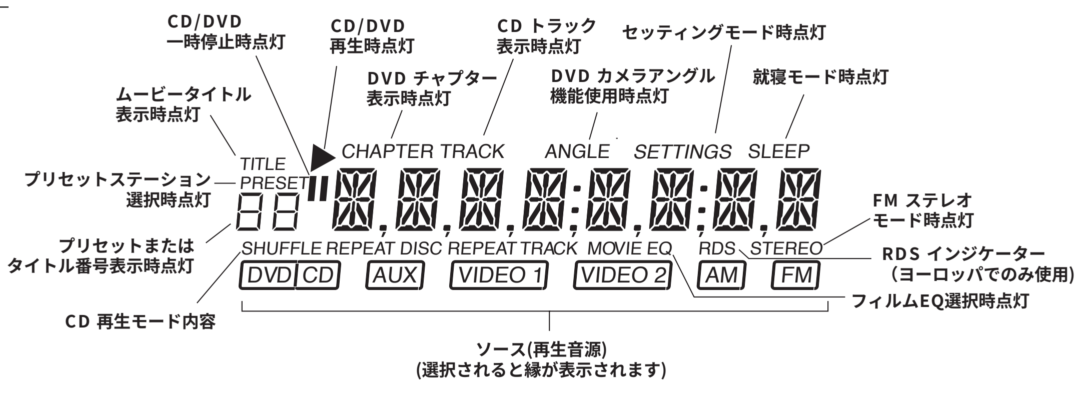
ディスクトレーを開閉するときに押します。ディスクの再生中にこのボタンを1度押すと再生を停止し、もう1度押すとディスクトレーが開きます。

ディスプレイ表示について

電源をOnにすると、メディアセンターのステータスインジケーターは現在の状態を表示します。下の図の表示がすべて点灯するわけではありません。動作しているモードや、状況に応じて必要なものが点灯するようになっています。

図23

表示部のすべての内容



オンスクリーンディスプレイ

テレビの画面を使用して音声や映像に関するさまざまな設定を行えます。

オンスクリーンディスプレイを表示するには

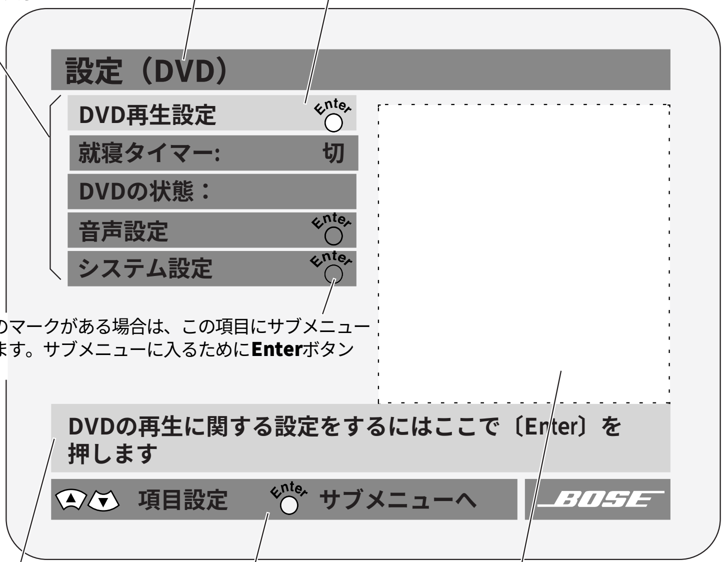
リモコンの**Settings** ボタンを押してください。画面にオンスクリーンディスプレイが表示され、現在の再生モードと関係する項目が表示されます。例えば、DVDモードのときに**Settings** ボタンを押せば、図24のような画面になります。

オンスクリーンディスプレイをテレビ画面から消すには

リモコンの**Settings** ボタンをもう一度押してください。

図24

オンスクリーンディスプレイ



メニューの項目を選ぶには

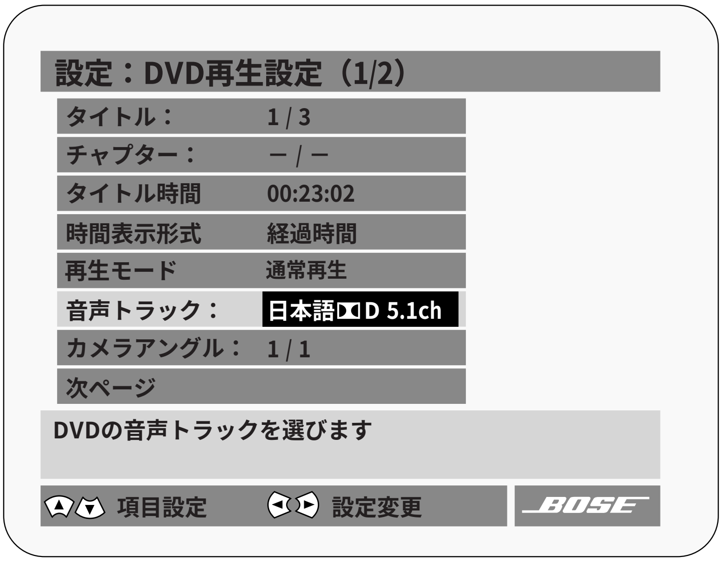
リモコンの Tune▲、Tune▼ ボタン（22ページ参照）を使って設定したい項目を選びます。

セッティングを変更するには

リモコンの ◀Seek、Seek▶ ボタン（22ページ参照）を使って選んだ設定を変更します（図25参照）。

図25

セッティングを変更する



現在の設定と状況を確認するには

（ソース）の状態を選ぶと画面の右側にあるステータス・ディスプレイ・エリアに現在選ばれているソース（音源）に関する情報が表示されます（DVD選択時の状況：図26参照）。

図26

DVDの状態の例



システムの電源のOn/Off

メディアセンターのコントロールパネル上の Power ボタン または、リモコンの On/Off ボタンでシステムの電源をオン/オフできます。 Power または On/Off ボタンで電源を入れた場合、前回電源を切ったときのソース(音源)が自動的に選択されます。また、リモコンのソース選択のボタンで電源を入れた場合は電源が入ると同時にそのソースに切り換わります。

はじめてDVDを再生するその前に

はじめてDVDを再生する前に次のことを確認してください。

・付属のリモコンの使い方を覚えましたか？
・DVDビデオディスクの地域番号(リージョンコード)が適切ですか？
(本機の地域番号は「2」です。「2」または「2」を含むものあるいは「ALL」と表示されたDVDビデオが再生できます。)
・テレビの入力切換は間違いなくメディアセンターからの入力を選択していますか？

DVDならではの機能を使用しようとしても、DVDにその情報や機能が入っていない場合は使用することができません。例えば、アングルを切り換えたくてもアングル情報がディスクに記録されていなければアングルを切り換えることができません。また、サブタイトル(字幕など)を表示させようと思ってもその情報がディスクに記録されていなければ、本機のシステムで設定しても表示させることはできません。
DVDビデオの中には、ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。ディスクのジャケットなどもご覧ください。

DVDディスクのセットと再生

1. テレビの電源とモデル3・2・1GSシステムの電源を入れます。
2. リモコンの**CD/DVD** ボタンを押します。
3. メディアセンターのコントロールパネルの**Stop/Eject** ボタンを押してディスクトレーを出します。
4. ディスクトレーにDVDディスクをセットします。
5. メディアセンターのコントロールパネルの**Stop/Eject** ボタンを押してディスクトレーを収納します。
   自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ボタンを押してください。

DVD再生時の基本的な操作

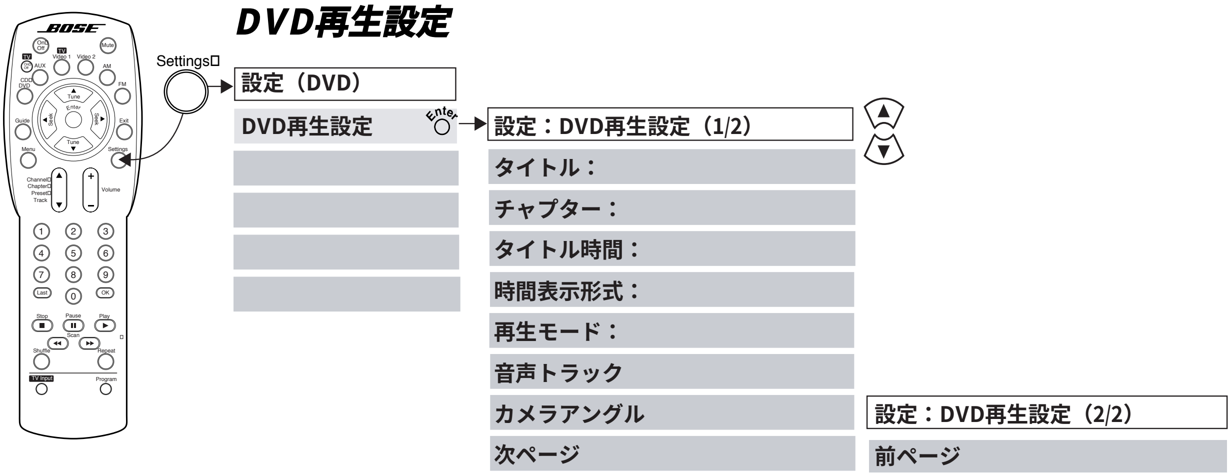
一時的に停止させたい・・・・・・・・・・・・	リモコンの**Pause** ボタンを押します。
停止させたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	リモコンの**Stop** ボタンを押します。
チャプターを移動させたい・・・・・・・・	リモコンの**Chapter** を押して前後のチャプターを選びます。
チャプターの繰り返し再生をしたい・・・・	リモコンの**Repeat** ボタンをチャプター再生中に押します。
早戻し、早送りしたい・・・・・・・・・・・・	リモコンの**Scan** ボタンを押し続けます。

♪ **注意：DVD再生中にStop ボタンを押したり、他のソースのボタンを押すと現在再生しているところを記憶したまま停止したり他のソースに切り換わります(リジューム(続き再生メモリー)ストップ)。ただし、外部の機器からデジタル入力がある場合はリジューム機能が働きません。**

DVDの内容による動作の違いについて

DVDを再生中、オンスクリーン・ディスプレイ上でメニュー項目を設定している最中のシステムの動作は、再生しているDVDによって、停止しているか、前の画面に戻ってしまうか、次の画面に移動してしまうかなど異なります。これは本システムの問題ではありません。

DVD再生設定



下図のオプション項目は、DVDモード時にリモコンの**Settings** ボタンを押してオンスクリーンディスプレイに表示させてから設定を変更してください。その他の設定項目の内容については音声設定（34、35ページ）とシステム設定（36、37ページ）を参照してください。

項目：	設定（DVD）	内容
タイトル：	1 / ―	リモコンのテンキーでタイトル番号を入力してタイトルを選べます。
チャプター：	1 / ―	リモコンのテンキーでチャプター番号を入力してチャプターを選べます。
タイトル時間：	時:分:秒	タイトルの頭からの時間を入力してシーンに移動できます。
時間表示形式：	経過時間 残り時間	経過時間をオンスクリーンとメディアセンターのディスプレイに表示します。 残り時間をオンスクリーンとメディアセンターのディスプレイに表示します。
再生モード：	早戻し（8×）/早戻し（4×）/早戻し（2×）/一時停止/通常再生/早送り（2×）/早送り（4×）/早送り（8×）	早戻し、早送り再生のスピードが選べます。
音声トラック：	英語 □□ 5.1ch 日本語 □□ D 2ch など	DVDに記録されている音声トラックを選べます。追加音声トラックには違う言語のものや代わりのフォーマットの音声を含んでいる場合があります。
カメラアングル：	1 / ―	マルチアングルで記録されている場所では好きなアングルが選べます。
次ページ		残りのメニューを表示します。
前ページ		始めのメニュー項目にもどります。
字幕：	入 切	字幕が画面の下部に表示されます。 字幕は表示されません。
字幕言語：	英語 / 日本語 / その他	字幕を表示するための言語を選びます。
A－Bリピート		範囲を指定して、繰り返し再生します。 • 繰り返し再生したい範囲の始点(A)で**Enter**ボタンを押します。 • 繰り返し再生したい範囲の終点(B)まで進める、あるいは戻す。 • **Enter**ボタンを押します。 繰り返し再生をやめるには**Enter**、**Play**または**Stop**ボタンを押します。

CDのセットと再生

1. リモコンの**CD/DVD** ボタンを押します。
2. メディアセンターのコントロールパネルの**Stop/Eject** ボタンを押してディスクトレーを出します。
3. ディスクトレーにCDをセットします。
4. メディアセンターのコントロールパネルの**Stop/Eject** ボタンを押してディスクトレーを収納します。
自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ボタンを押してください。

CD再生時の基本的な操作

一時的に停止させたい……………………	リモコンの**Pause** ボタンを押します。
一時停止を解除したい……………………	再びリモコンの**Pause** ボタンを押すか、リモコンの**Play** ボタンを押してください。
停止させたい…………………………	リモコンの**Stop** ボタンを押すか、メディアセンターの**Stop/Eject** ボタンを押します。
次のトラック(曲)へ移動したい……………	リモコンの**Chapter** **上**を押して次のトラックへ移動します。
再生中のトラック(曲)の頭の部分に戻りたい….	数秒間再生の後、リモコンの**Chapter** **下**を押すと、現在再生中のトラックの頭に戻ります。
一つ前のトラック(曲)へ戻りたい…………	数秒間再生の後、リモコンの**Chapter** **下**を2回押すと、現在の一つ前のトラックの頭に戻ります。
早戻し、早送りしたい……………………	リモコンの**Scan** または ボタンを押し続けます。
曲をランダムに再生したい………………	CDをセットした後にリモコンの**Shuffle** ボタンを押します。
ランダム再生を解除したい………………	ランダム再生モードのときにリモコンの**Shuffle** ボタンを押します。

下図のオプション項目は、CDモード時にリモコンの**Settings** ボタンを押してオンスクリーンディスプレイに表示させて設定を変更してください。
その他の設定項目の内容については音声設定（34、35ページ）とシステム設定（36、37ページ）を参照してください。

項目：	設定（CD）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます（外部の機器の電源を切ることはできません）。
トラック：	1/ー	リモコンの数字ボタンでトラック番号を入力してトラック（曲）が選べます。
トラック時間：	時:分:秒	CDの頭からの時間を入力してその経過時間のところに移動できます。
CDの状態		CDについての情報を表示します。
音声設定		音声設定（34ページ）を参照。
システム設定		システム設定（36ページ）を参照。

就寝タイマーの使い方

モデル3・2・1GSシステムには、10〜90分までの設定時間が経過した後、自動的に電源が切れる就寝タイマーを内蔵しています。
就寝タイマーの設定はそれぞれの再生モード時にリモコンの**Settings** ボタンを押してオンスクリーンディスプレイに就寝タイマーの項目を表示させて設定してください。

♪ **注意：就寝タイマーで電源を切ることができるのは本システムのみです。システムに接続している他の外部の機器の電源を切ることはできません。**

ラジオの使い方

リモコンの**AM** またはFM ボタンを押してラジオモードを選んでください。もし、システムの電源が切れていても、自動的に電源が入り、最後に聞いていた放送局を選んで電源が入ります。

選局のしかた

バンド(AMまたはFM)を‥‥換えたい	リモコンの**AM** またはFM ボタンを押して希望のバンドを選んでください。
受信状況の良い放送局を‥‥自動で選びたい	選局をはじめるまでリモコンの**Seek** または ボタンを押してください。選局を始めたら指を離します。自動的に放送局を選局します。すぐに選局を止めたいときはトンとリモコンの**Seek** または ボタンを一回だけ押してください。自動で選んだ後、すぐにまた自動選局をさせたい場合はリモコンの**Seek** または ボタンを一回だけ押してください。
手動で選局したい‥‥‥‥‥	リモコンの**Tune** ボタンを押して周波数をかえてください。
プリセットしてある放送局を‥呼び出したい	リモコンの**Preset** ボタンを押して希望のプリセット放送局を呼び出してください。あるいは、リモコンの数字ボタンを使って直接プリセットしてある放送局の番号を入力してください。

システムがAMあるいはFMモードのとき、そのバンドに関しての利用可能なオプションの設定をオンスクリーンディスプレイ画面で設定変更できます。オンスクリーンディスプレイはリモコンの**Settings** ボタンを押して画面に表示してください。そのとき、必ずテレビの電源も入れておいてください。 その他の設定項目の内容については音声設定（34、35ページ）とシステム設定（36、37ページ）を参照してください。

プリセットチューニングのために放送局を登録します

よく聞く放送局をすぐに呼び出せるようにあらかじめ記憶させておくことができます。
プリセットできる放送局はFM 、AMそれぞれ25局です。

放送局をプリセットするには：

※オンスクリーンディスプレイ画面が開いている場合は、リモコンの**Settings**ボタンを押して閉じてから行ってください。

1. リモコンで**Tune、Seek、**または**Scan**ボタンを押して登録したい放送局の周波数に合わせます。
2. リモコンの**Enter** ボタンを押すと、メディアセンターのディスプレイにプリセット番号が点滅します。

・その番号でよければ、リモコンの**Enter** ボタンを押します。
・もし、他のプリセット番号に登録したい場合は、 ボタンを押して登録したいプリセット番号を選んでリモコンの**Enter** ボタンを押します。

♪注意：**今すでに放送局がプリセットしてある番号に、新たに他の放送局を登録したい場合は、あらかじめその番号に割当てられた放送局を削除しておいてください。**

登録してある放送局の削除のしかた：

※オンスクリーンディスプレイ画面が開いている場合は、リモコンの**Settings**ボタンを押して閉じてから行ってください。

1. 放送局を呼び出して、リモコンの**Enter** ボタンを押します。
2. メディアセンターのディスプレイに **ERASE ?** と表示されたら、リモコンの **Enter** ボタンを押してください。その番号に登録してある放送局が削除されて、別の放送局が登録できるようになります。

プリセットチューニングのしかた：

プリセットしてある放送局は、リモコンや、オンスクリーンディスプレイ画面で簡単に呼び出すことができます。

リモコンで呼び出す方法：

・リモコンの数字ボタンを使って、聞きたい放送局を登録してあるプリセット番号を直接入力します。
・リモコンの**Preset** ボタンを押してプリセット番号を選びます。

オンスクリーンディスプレイ画面で選ぶ方法：

1. リモコンの**AM** またはFM ボタンを押してラジオモードに切り換えます。
2. リモコンの**Settings** ボタンを押します。このとき必ずテレビの電源を入れておいてください。
3. リモコンの ボタンを押して、**Preset**を選びます。
4. リモコン / のボタンを使って聞きたい放送局のプリセット番号を選びます。

FM放送受信時の設定変更

項目：	設定（FM）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます（外部の機器の電源を切ることはできません）。“ 就寝タイマーの使い方（31ページ）を参照 ”
周波数：	----	放送局の周波数に合わせます。
プリセット：	ー/25	プリセットさせた放送局のプリセット番号を入力します。
FMの状態：		FMラジオの情報を表示します。
モード切換：	ステレオ	FM放送を常にステレオで演奏します（ただし、ステレオ番組の場合）。
	モノラル	FM放送を常にモノラルで演奏します。
音声設定		音声設定（34ページ）を参照。
システム設定		システム設定（36ページ）を参照。

AM放送受信時の設定変更

項目：	設定（AM）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます（外部の機器の電源を切ることはできません）。“ 就寝タイマーの使い方（31ページ）を参照 ”
周波数：	----	放送局の周波数に合わせます。
プリセット：	ー/25	プリセットさせた放送局のプリセット番号を入力します。
AMの状態：		AMラジオの情報を表示します。
音声設定		音声設定（34ページ）を参照。
システム設定		システム設定（36ページ）を参照。

外部機器のソースを聞くとき

メディアセンターに接続されている外部の機器を使用するときは、外部の機器のリモコンや、フロントパネルにある電源スイッチを使用して外部の機器の電源を入れておいてください。

リモコンの**AUX** 、**Video 1** または**Video 2** ボタンを押すと、モデル3・2・1GSシステムの電源が入り、自動的にそのソースが選ばれます。 外部の機器にあらかじめテープやディスクをセットしておいてください。

音量はリモコンの**Volume** ボタンまたは、メディアセンターのコントロールパネル**Volume** ⊖、⊕ のボタンを使って上げ下げします。

外部の機能を操作するためには、それぞれの機器のリモコンやパネルのスイッチを使用してください。それらの機器の詳細に関しては、それらの機器の取扱説明書をご覧ください。

内蔵あるいは、外部の機器のソース(AM/FM、CDあるいはAUX)を外部のテープデッキなどに録音するには、録音しようとしているソースが間違いなくスピーカーから再生されているかを確認してから録音を開始してください。

外部機器からのソースを聞くときの設定変更

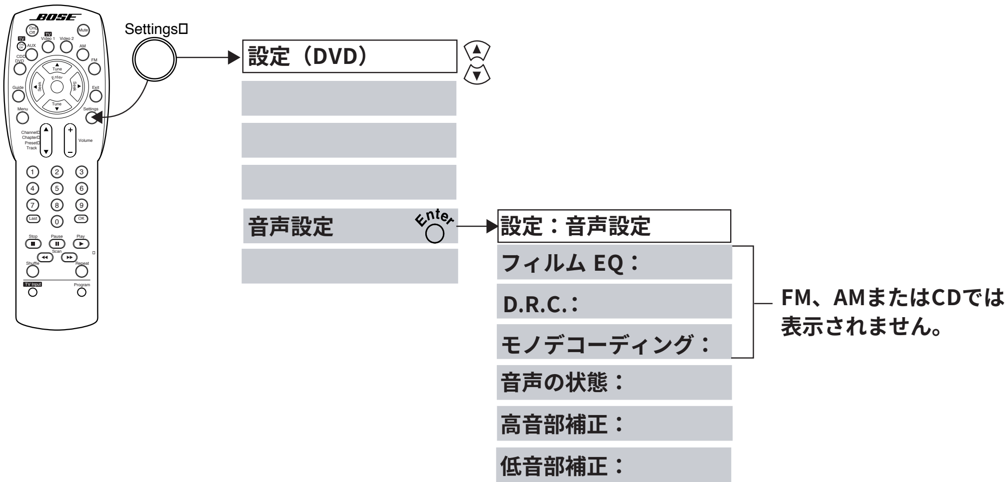
項目：	設定（AUX/Video 1/Video 2）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます（外部の機器の電源を切ることはできません）。“ 就寝タイマーの使い方（31ページ）を参照 ”
AUX/Video 1/Video 2の状態：		現在のソース情報を表示します。
音声設定		音声設定（34ページ）を参照。
システム設定		システム設定（36ページ）を参照。

システム設定について

必要があれば、システム設定はオンスクリーンディスプレイの中のシステム設定を使用して変更することができます。設定の変更のしかたは、システム設定（36、37ページ）を参照してください。

音声設定

1. リモコンの**Settings** ボタンを押すと、現在選択しているソースにおいて利用可能な設定の項目がテレビ画面に表示されます。
2. リモコンの**Tune** **down** ボタンを押して、音声設定を選択してください。このとき項目が強調されて表示されます。
3. リモコンの**Enter** ボタンを押します。現在のソースのための音声設定項目が表示されます。

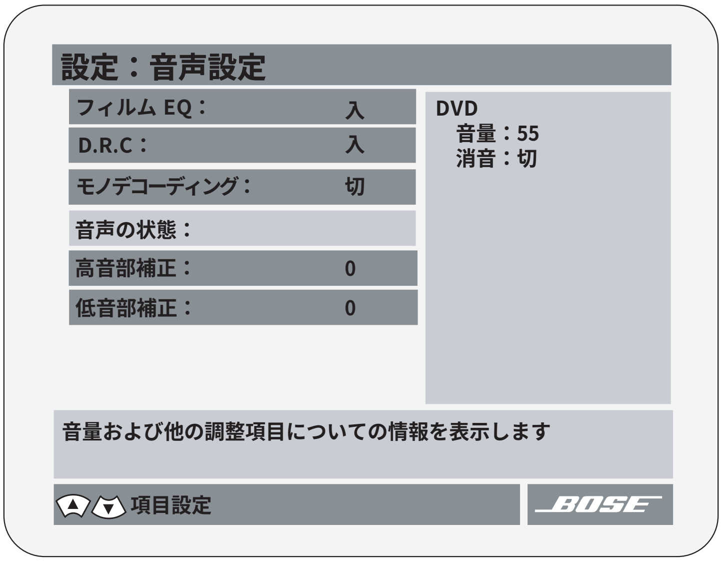


音声設定内容の変更

項目：	音声設定	内容
フィルムEQ：	入 切	映画用に音質バランスを最適化するときは［入］にします。 フィルムEQが働きません。
D.R.C.：	入 切	D.R.C.を［入］にすると小さい音量でも会話が聞こえやすくなります。 D.R.C.が働きません。
モノデコーディング：	入 切	モノラル信号をマルチチャンネル再生するときは［入］にします。 モノデコーディングが働きません。
音声の状態		音声の状態を表示します。
高音部補正：	−15〜+15	部屋の環境に合わせて音声の高域量を増減できます。 床や壁がむき出しであるなど、音を吸収する家具などが少ない部屋では高域成分が多くなります。その場合は、−1〜−15の範囲で量を減らします。 敷き詰めタイプのカーペット、厚いカーテンのような音を吸収する家具を備えた部屋では高域成分が低減することがあります。その場合は、+1〜+15の範囲で量を増やします。
低音部補正：	−15〜+15	低音の量が多すぎる場合は、−1〜−15の範囲で量を減らします。 低音の量が少なすぎる場合は、+1〜+15の範囲で量を増やします。

図27

DVD再生時の
音声設定情報



システム設定

1. リモコンの**Settings** ◯ ボタンを押すと、現在選択しているソースにおいて利用可能な設定項目がテレビ画面に表示されます。
2. リモコンの**Tune** ▼ **down** ボタンを押して、**システム設定** を選択してください。このとき項目が強調されて表示されます。
3. リモコンの**Enter** ◯ ボタンを押すと、システム設定項目が表示されます。

システム設定項目

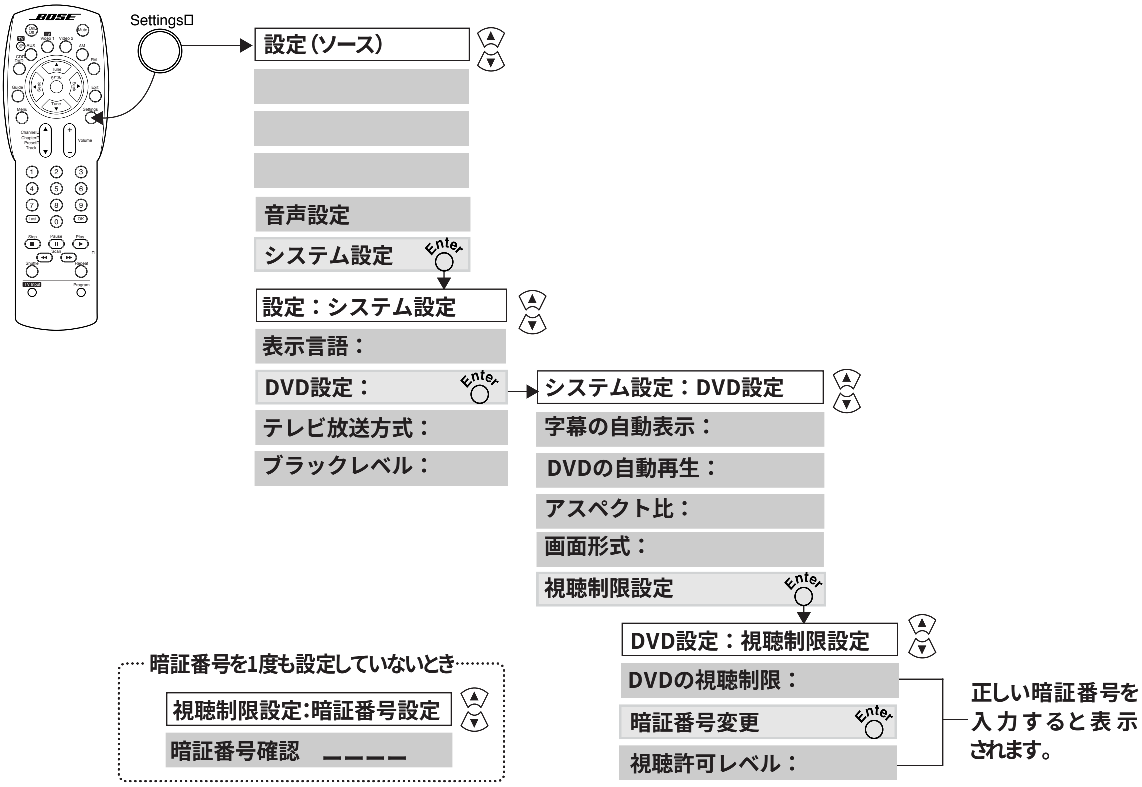
システム設定項目は、システム全体に関する項目を表示します。

項目：	設定：システム設定	内容
表示言語：	日本語/English	オンスクリーンディスプレイの表示に用いる言語を選びます。 設定を変更したら Settings ボタンを 2 回押すと、変更後の言語でオンスクリーンディスプレイに表示されます。
DVD設定		DVD の動作設定をするには Enter ボタンを押します。
テレビ放送方式：	NTSC/PAL	テレビ放送方式を選びます。日本では常に［NTSC］を選択しておいてください。
ブラックレベル：	通常 拡張	米国標準 日本標準

DVD設定におけるサブメニュー

DVD設定におけるサブメニューは、DVD特有の機能についての設定が行えます。また、このサブメニューには視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、視聴制限についての設定項目も含まれています。

項目：	システム設定: DVD設定	内容
字幕の自動表示：	入 切	DVDの再生設定で字幕を［切］にしておいても［MUTE］（消音）状態のときに自動的に字幕を表示する機能です。
DVDの自動再生：	入 切	ディスクを入れると自動的に再生を開始します。 ディスクを入れても自動再生を行いません。Playボタンを押して再生してください。
アスペクト比：	4：3 16：9	標準テレビ用の画面サイズ。 ワイドテレビ用の画面サイズ。
画面形式：	パンスキャン レターボックス ーー	4:3のアスペクト比でのワイド画面の両端がカットされた映像です。 4:3のアスペクト比での全画面表示、上下に黒い帯がでたワイド映像です。 アスペクト比16:9を選んだときば“ ーー ”と表示されます。
視聴制限設定		視聴制限を設定するにはEnterボタンを押します。



視聴制限サブメニュー

視聴年令制限に対応したディスクの再生を制限する、視聴制限についての設定項目です。

暗証番号入力前

項目： 視聴制限設定：暗証番号設定		内容
暗証番号入力：	————	暗証番号を4桁の数字で入力してください。

※暗証番号を最初に設定する時、項目に**暗証番号設定**と表示されますので、暗証番号にする4桁の数字を入力してください。その後、確認のために暗証番号を入力するように要求されますので、暗証番号を再度入力すると設定が終了します。

暗証番号入力後

項目： DVD設定: 視聴制限設定		内容
DVDの視聴制限：	入 切	［入］にするとDVDの再生・視聴に暗証番号の入力が必要になります。 視聴制限しません。 **DVD の視聴制限について** 視聴制限のレベルが設定されていない DVD ソフトを再生する場合は、必ず［切］に設定しておいてください。“視聴制限（パレンタルコントロール）について”（38 ページ）参照。
暗証番号変更：	————	新しい暗証番号の設定あるいは現在の暗証番号の変更にはここでEnterボタンを押します。暗証番号を変更するにはここで4桁の数字を入力してください。
視聴許可レベル：	1～8以下	視聴許可レベルを越えるDVDの視聴を制限します。［8以下］にすると制限はかかりません（38ページ参照）。

※設定した暗証番号を忘れてしまったときは、［2673］と入力すると、以前の暗証番号が解除されます。その後、新たに暗証番号を設定してください。視聴制限機能を使用する場合は、お子様が不用意に視聴制限を解除しないように、この取扱説明書の保管にご留意ください。

視聴制限（パレンタルコントロール）について

視聴制限とは、国ごとの規制レベルに合わせて視聴年齢制限のレベルが設定されているディスクの再生を制限するというDVDの機能の一つです。制限の仕方はDVDによって異なり、ディスクによっては子供に見せたくないシーンをカットしたり、全く再生できないようにする、別の画面に差し換えるなどするものもあります。3・2・1GSでは子供がレベル設定を変えることのないように、暗証番号で設定を保護することができます。
通常各DVDにおける視聴許可レベルは全米映画協会(MPAA)によって設定された標準の映画観客指定に準拠しています。 これらの視聴許可レベルは1(どんなに小さい子供でも見せてよい)から8(成人向け)まであります。視聴制限の使い方は37ページを参照してください。

視聴許可レベル	視聴（年齢）制限の およそのめやす	全米映画協会 映画観客指定
8	最も厳しい視聴制限	
7	17歳以下入場禁止	NC-17
6	17歳未満保護者同伴要	R
5	中学生以下保護者同意要	
4	13歳未満保護者同意要	PG-13
3	年少者保護者同意要	PG
2	ほぼ年齢制限なし	
1	一般（年齢制限なし）	G

※適切な視聴許可レベルは、実際に視聴制限のレベルが設定されているDVDソフトをお買い上げになられたときに、お客様自身で動作させて、ご確認ください。

視聴許可レベルの設定

再生するDVDソフトにレベル設定がされている必要があります。本機で視聴許可レベルを設定しても、DVDソフトにレベル設定がされていなければ、この機能は使用できません。

視聴許可レベルの意味

「一般（年齢制限なし）（レベル1）」とは、どんな小さな子供にも見せることができる内容であるという意味です。本機で視聴許可レベルを[1]にすると、レベル2〜8に設定してあるDVDソフトを視聴することができなくなるという意味です。

3・2・1GSの レベル設定	視聴可能なソフトの視聴制限レベル
8 以下	8 7 6 5 4 3 2 1
7 以下	7 6 5 4 3 2 1
6 以下	6 5 4 3 2 1
5 以下	5 4 3 2 1
4 以下	4 3 2 1
3 以下	3 2 1
2 以下	2 1
1	1

モデル3・2・1GSシステムのお手入れについて

メディアセンターとスピーカーのお手入れ

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。

・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

・アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

・どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。

・スピーカーのグリルの部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

ディスクの取り扱いについて

結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。メディアセンターも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるディスクからの信号読み取りができず、メディアセンターが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれメディアセンターは正常に動作するようになります。

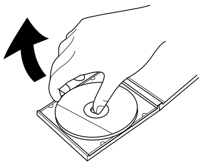
ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。

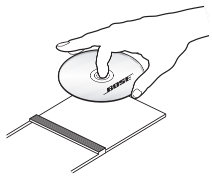
ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

図28

ディスクの取り扱い

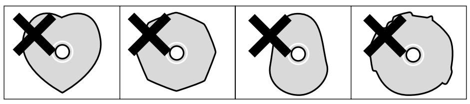


ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。



ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

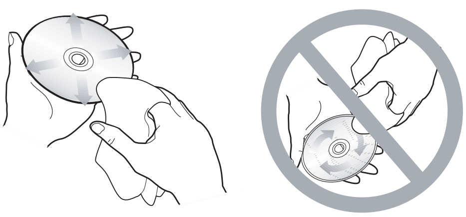
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
- 再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままメディアセンターにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ディスクは、2枚以上重ねて置いたり、ディスク以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。
- 市販のディスクスタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ハート型や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



ディスクの表面はいつもきれいに

ディスクの表面を拭くときは必ずディスク専用のクリーナーを使用して右の図のように拭いてください。

※ディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、ディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。



ディスク保管上の注意

ディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

●直射日光の当たる場所。
●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
●車の中などの高温になる場所。
●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
●極端に寒い場所。
●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
●屋外や直接水のかかるところ。

注意：ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　応
システムが全く機能しない	• ベースモジュール接続ケーブルとメディアセンターが確実に接続されていて、ベースモジュールに AC ケーブルが確実に差し込まれており、AC プラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認する。 • 音源の選択が行われていることを確認する。
音声が全く出ない	• ベースモジュール接続ケーブルがメディアセンターの ACCOUSTIMASS MODULE 出力端子に接続されており、ケーブルの反対側がベースモジュールにしっかり接続されていることを確認する。 • AC プラグをコンセントから抜いて、約 1 分以上放置して、もう一度電源を入れ直してみる。 • 外部の機器との接続をチェックする。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認する。 • スピーカーコードの接続をチェックする。 • ディスクがメディアセンターに正しくセットされていることを確認する。 • ボリュームを上げる。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの **Mute** ボタンを押しミュートを解除する。
音が歪んでいる	• スピーカーコードに損傷したところがないか確認する。 • 外部の機器からの出力が大きすぎないか確認する。
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく働かない	• 電池装着および、その極性（⊕と⊖）をチェックする。 • リモコンをメディアセンターの表示部に近づけて操作する。
ディスクが演奏できない	• 表示部のプレイ ▶ 記号が点灯しているかチェックする。 • 正しくディスクがメディアセンターにセットされているかを確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 • レーザーピックアップあるいはディスクに塵やゴミが付いている可能性がある。市販のクリーニングキットを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。 **※コピーガードや長時間記録など特殊な処理を施されたCDをかけた場合、正しく再生されないことがありますのでご注意ください。** • DVD ビデオディスクの場合、地域番号（リージョンコード）が正しいか確認する。
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認する。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善する。 • 信号が弱い地域の可能性がある。 • AM アンテナを本機からもっと離してみる。 • FM の場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみる。
FM サウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してみる。
外部機器からの音声が出ない	• 入力切換で正しく外部の機器を選んでいるかチェックする。 • 接続をチェックする。 • 外部機器の取扱説明書を参照する。
Video 1/2、AUX に接続した外部機器からの音声の低音が大きすぎる	• “ フイルム EQ ” がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除する（34 ページ参照）。
画像がでない	• テレビの電源が入っているか確認する。 • モデル 3・2・1GS システムの電源が入っているか確認する。 • メディアセンターのコンポジット映像出力あるいは S 映像出力がテレビに確実に接続されているか確認する。 • テレビ側の入力切換が適正ポジションであるか確認する。 • テレビ側の S 端子（映像入力端子）に接続されているか確認する。
再生画像がでない、乱れる（DVD 画像）	• ディスクが、メディアセンターに正しくセットされていることを確認する。 • DVD 以外のディスクが入っていないか確認する。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしている。 **※本機が再生できるソフトは、リージョンコード（発売地域割当コード）が2のソフトです。** • DVD の映像ケーブルが直接テレビにつながれていることをチェックする。 **※途中に別の機器をつなぐと映像が正しくでません。**
再生画像がでない、乱れる（ビデオ画像）	• ビデオ側の電源が入っているか確認する。 • ビデオテープが正しく挿入されているか確認する。 • ビデオの映像出力ケーブル（黄色）が、本機の映像入力端子に正しく接続されているか確認する。 • ビデオケーブルが不良の場合は、他のケーブルと交換する。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先：ボーズサービスセンター ☎ 045-979-0821

製品等のお問い合わせ先：ボーズ株式会社、インフォメーションセンター ☎ 03-5489-0955

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

仕様

■スピーカー部

方式	TrueSpace™サラウンド

●ジュエルアレイ（防磁型）

ユニット構成	50mmドライバー×2(1本)
外形寸法	142(W)×66(H)×107(D)mm
質量	440g(1本)

●ベースモジュール（非防磁型）

ユニット構成	13cmウーファー×1
外形寸法	221(W)×360(H)×488(D)mm
質量	10.7kg
＜内蔵アンプ部＞	
ベース定格出力	35W×1

■メディアセンター部

外形寸法	339(W)×100(H)×254(D)mm
質量	4.0kg
＜内蔵アンプ部＞	
フロント定格出力	25W×2
サラウンド定格出力	25W×2
＜プリアンプ部＞	
音声入力	アナログ　VIDEO1／VIDEO2／AUX デジタル　同軸×3／光×1
音声出力	アナログ×1
映像入力	コンポジット×1、S×1
映像出力	コンポジット×1、S×1
＜DVD/CDプレーヤー部＞	
再生周波数帯域	20Hz～20kHz(±0.5dB)
＜チューナー部＞	
FM受信周波数/チャンネルステップ	76.0～90.0MHz/100kHz
AM受信周波数/チャンネルステップ	531～1629kHz/9kHz

■その他

電源電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	105W（電気用品安全法）

■付属品

スピーカーコード（4.4m×1セット）、ベースモジュール接続ケーブル（3m×1本）、
ACケーブル×1本、T型FMアンテナ×1本、ループ型AMアンテナ×1セット、
映像用ピンケーブル(1.8m×1本)、
オーディオピンケーブル(1.7m×1本)、赤外線リモートコントローラー×1個
スピーカー用ゴム足×8個、ベースモジュール用ゴム足×4個、リモコン用乾電池×2

設定コード表

アイワ............... 0701, 1910,1914

富士通............... 0179, 0186, 0683

フナイ............... 0171, 0179, 0264, 1904

日立............... 0009, 0016, 0019, 0027, 0032, 0036, 0038, 0039, 0044, 0056, 0145, 0151, 0157, 0165, 0178, 0179, 0186, 0225, 0227, 0381, 1904□

三菱............... 0019, 0033, 0036, 0056, 0093, 0108, 0178, 0179, 0250, 0358, 0381, 1917□

NEC............... 0009, 0019, 0036, 0046, 0056, 0165, 0170, 0178, 0186, 0381, 0455□

パナソニック.......... 0037, 0055, 0126, 0226, 0250, 0367, 0637, 0650, 1919, 1924, 1927, 1941, 1946, 1947□

パイオニア............ 0038, 0166

サムソン............... 0009, 0019, 0032, 0056, 0178, 0179, 0264, 0644, 1903□

三洋............... 0036, 0146, 0157, 0159, 0208, 0280, 0381, 1907

シャープ............... 0032, 0036, 0039, 0093, 0157, 0165, 0256, 0386, 0650, 1093, 1193, 1917□

ソニー............... 0000, 0011, 0036, 0080, 0111, 0650, 1904, 1925

東芝............... 0036, 0070, 0381, 0508, 0644, 0650, 1918, 1935, 1936, 1945□

ビクター（JVC）..... 0036, 0053, 0094, 0250,0650,0653, 1923,

ボーズ株式会社
http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1272
03•10-0.6K-A•1（I-M）